

令和6年度 能美市立福岡小学校 学校評価【中間評価】

重点目標 (めざす姿)	重点目標及び具体的方策	主担当	【評価の根拠】 達成度判断基準	1学期の取組状況	評価	今後の改善策 (いつ・誰が・何を・どんなふうに・めざす子どもの姿)
1 組織的な学校運営	①(安心・安全な学校生活・危機管理) 児童が安心して明るく元気に学校生活を送れるよう、物心両面における安全管理と危機管理に努め、いじめ・不登校等の未然防止をはじめ、課題に対して組織的に迅速・適切に対応する。	教頭	【児童アンケート①】 ・学校は楽しい。 【保護者アンケート①】 ・お子さんは、楽しく学校へ通っている。 【教職員アンケート①】 ・いじめや不登校等の課題に、組織として迅速・適切に対応している。 A: +評価90%以上 B: 80%~ C: 70%~ D: 70%未満	【児童①96%】【保護者①96.8%】【教職員①100%】 全職員が児童についての様々な気づきをすくすく担任や職員室で報告・連絡していき、情報共有されている。校内の環境整備や地盤等の安全管理への声掛けも日常化してきた。いじめ・不登校傾向などの課題については、担任による聞き取り・面談等を早めにに行い、複数での対応を迅速にしている。保護者への連絡・面談等も密にやり、必要に応じて、専門機関との連携も図り、児童が安心して学校生活を過ごせるよう努めている。	A	・児童、保護者ともアンケートの結果は、96%と高評価だった。今後も各担任は児童をよく見守り、居場所のある学級経営に継続的に取り組む。また、全職員で児童のよいところを認め、自己肯定感を持って声かけ等に努める。そのために児童の言動や日常生活の様子に常に高い意識をもち、職員間での情報交換を密にしてい。毎月の児童理解を継続し、いじめ、不登校等の課題については早期発見・早期対応に心掛け、複数での組織的な対応ができるようになる。
	②(組織的な教育活動の推進) 学校運営の状況や課題及び学力の傾向や課題について、全職員が共有し、組織的・計画的に取り組む。	教務	【教職員アンケート②】 ・「学校経営ビジョン」具現化のための各自の役割を認識し、組織的・計画的に実践し、検証を経て改善している。 A: +評価90%以上 B: 80%~ C: 70%~ D: 70%未満	【教職員②100%】 教育活動については、事前に学校ビジョンにおける方向性の確認を行い、運営委員会にてねらいや方針を協議の上、校務分掌部会で具体的な取組を企画・運営してきた。また、各部会でも取り組み内容を検証し、次への改善の方策を打ち出している。	A	・各主任を中心に校務分掌部会で、取り組んだ活動について定期的な検証を行い、修正があれば、職員会議などで伝え、共通理解する。主任を中心に各担当が学校ビジョンに基づいた取組を企画し、全職員で協力的に実践を行う。
	③(業務改善) 教職員が常に時間管理意識やワークライフバランス意識を保持し、業務のスムーズ化・効率化を図る。	教頭	【教職員実態調査】 ・時間外勤務時間が45h以内の割合。 A: +評価90%以上 B: 80%~ C: 70%~ D: 70%未満	【教職員調査73%】(非常勤講師・再任用以外の教職員) 1学期の時間外勤務が45時間を超えたのは、主に管理職と主任であり、特に年度初めは業務が多くなるため、仕方がないところもある。分掌部会でできることを分担したりスクールサポートスタッフのサポートを受けたことで、内容の標準化を図った。全体での時間外勤務時間は徐々に減っている。	C	2学期は大きな行事や授業改善等に取り組むことが多くなるが、職員同士の連絡を密にとり計画的に進めるようにする。授業や校務でのICTの活用も担当を中心に推進し、効率化を図る。また、常に業務内容の見直しを模索しながら、学校全体で今後につなげるスリム化・効率化を考えていく。
2 知(確かな学力の育成)	①(基礎基本の育成) 学習規律の徹底を図り、聞く・話すを中心とした「福岡小の学びのスタイル」を確立させ、目標達成にこだわった授業を目指し、基礎的知識・技能の定着を図る。	教務	【単元末テスト】 ・国語・算数の単元末テスト(知識・技能)の平均点 A: 90点~ B: 80点~ C: 70点~ D: 70点未満	【単元末テスト】 ・国語・算数の単元末テスト(知識・技能)の平均点 A: 90点~ B: 80点~ C: 70点~ D: 70点未満	B	2学期は、特に朝習での基礎基本の定着を進めていく。火曜日、水曜日、木曜日は漢字と計算の習熟を中心とし、プリントやドリルだけでなく、AIHPLの特性を生かし、個々の苦手な所を克服できるようにしていく。
	②(学ぶ喜びと達成感のある授業づくり) 算数科を中心に、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図る授業づくりの研究を推進することで、児童が主体的に学び、活用力の育成を図る。	研究	【児童アンケート②③】 ・自分が選んだ学び方で前向きに授業に参加している。 ・友達と意見を伝え合ったり、自分の考えをもう一度見直したりすることで、考えが深まっている。 【教職員アンケート⑥】 ・児童の主体的・協働的な学びを支援するための工夫・改善をしている。 A: +評価90%以上 B: 80%~ C: 70%~ D: 70%未満	【児童②92%③89%】【教職員⑥100%】 ・福岡小の学び方を確認し、1学期は全体指導も大切にしながら個別最適×協働的の学びを少しずつ学年に応じて取り入れてきた。リレー式に授業公開し、実践の中から皆で協議しより良い授業を探ってきた。多くの児童は、自分で選んだ協働的な学びの良さを感じている。また、そのような授業を教師全員が目指し、工夫・改善していると答えている。	B	2学期もねらい達成のための個別最適と協働的な学びの充実を、リレー授業を通して、成果と課題を出しながら積極的に進める。また、1学期末に提示した児童の振り返りを授業と共有したり、日々の振り返りや成長を価値づけたりし、さらなる意欲につなげお互いに高め合っていくようにする。
	④(GIGAスクール構想の推進) GIGA校内研修推進リーダーを中心に、研修を行うことで、全教員が「児童が一人一台端末を効果的に活用して学ぶ授業」の実践力をつける。	GIGA推進リーダー 校内研修	【児童アンケート④】 ・授業で、ICT機器を使って学ぶよさを感じている。 【教職員アンケート⑦】 ・デジタル教材(デジタル教科書、マイナースライドなど)を効果的に活用した授業を行っている。 A: +評価90%以上 B: 80%~ C: 70%~ D: 70%未満	【児童④93%】【教職員⑦93%】 ・全校児童クラスルームを立ち上げたり、分掌ごとに共有ドライブをつくらせたりする環境を整えることから始めた。環境を整えることで、Chromebookの良さを教職員も児童も感じられるようになった。 ・研修については、多業型ではなく、GIGAリーダーが随時個別相談を受けられる形にすることで、必要に応じた情報もいつでも得られるようになった。	A	2学期以降も、教職員一人一人のニーズに合った個別相談を受けたり、環境を整えたりすることで、教職員がChromebookを積極的に活用し、授業の学びに還元していけるようにする。 ・ICTサポートと連携して、各クラスにおいてデジタルシズンズ教育を行い、児童の意識を高める。
3 徳(豊かな心の育成)	①(積極的な生徒指導) 共感的人間関係を育む言葉を豊かにする取組をし、あたたか人間関係でつながる学級経営を行っている。	生徒指導	【児童アンケート⑤】 ・クラスで安心して過ごすことができる。 【教職員アンケート⑧】 ・意図的に共感的人間関係を育む場の設定をし、良い姿を認めている。 A: +評価90%以上 B: 80%~ C: 70%~ D: 70%未満	【児童⑤91%】【教職員⑧100%】 ・積極的な生徒指導を全校で推進するために、「全員発表大作戦」を全校で行った。教師が意図的にどの児童も発表できるような場を設定し、安心して自分の思いや考えを伝えられるようなあたたか学級づくりを目指し取り組んだ。どの学級でも児童が積極的に発表し、みんなで頑張ろうとする姿が見られた。	A	2学期にも積極的な生徒指導を全校で推進するための取り組みを計画・実施し、「生徒指導4つの視点」を意識した授業づくりを教師が行えるような取り組みを実施する。また、授業交流の際にも、生徒指導4つの視点を意識されている活動や教師の働きかけを見つ、研究授業などの授業改善で共有する。
	②(主体性・協働性の育成) 児童が主体的に取り組む、お互いを大切にしながら協働性を高める実践を工夫することで、「より良い学校」を自分たちでつくる」という意識を高める。	生徒指導 児童会	【児童アンケート⑦⑧⑨】 ・あいさつができた。 ・友達と協力して活動ができた。 ・決まりを守って行動することができた。 A: +評価90%以上 B: 80%~ C: 70%~ D: 70%未満	【児童⑦93%⑧94%⑨90%】 ・児童が自分から進んであいさつができるように、あいさつ運動を毎月15日に、運営委員会児童とPTAで行っている。 ・毎月の生活目標では、クラスで自分たちの目標を決め、月末に振り返りを行い、児童が自分たちで決めた目標を自分たちで守れるようになった。	A	あいさつ運動と生活目標の取り組みはこれからも継続して行っていく。 ・児童会目標である「3K」、「委員会1プラン」、児童会を活用した取り組みを今後も行い、それを通して、児童が自分たちでより良い学校をつくるという達成感が味わえるようにしていく。
	③(自己有用感の育成) 授業や様々な行事・活動において、児童に成長しようとする意欲を持たせ、自己評価・相互評価・教師からの評価を通して自己有用感を高める。	生徒指導	【児童アンケート⑩】 ・自分が学校・学級や友達の役に立っていると感じることがある。 A: +評価90%以上 B: 80%~ C: 70%~ D: 70%未満	【児童⑩86%】 ・掃除をたてわりで行い、異学年同士で掃除を教えたり、助け合ったりしている姿が見られた。 ・「全員発表大作戦」では、児童が自分の思いや考えを学級に広めることで、授業の中で自分自身が活躍できる場を見つめることができた。また、それを自分で点数化することで、自分の頑張りが成長を認めることもできた。	B	行事において、他学年同士が頑張りを認め合う活動を計画し、児童が自分や集団の成長を見つめられるようとする。 ・また、児童が授業にどのように臨むか、自分たちで決めて実践することで、主体的に授業に参加できるようにする。児童の良い姿を認め、価値づけ、伝え、広めていくことで児童の自己有用感を高めていきたい。
4 体(健康やかな身体の育成)	①(体力づくり) 児童が主体的に取り組む体力づくりや体育的行事の工夫・実施に努める。	保健主事	【児童アンケート⑩】 ・体を動かすことが好きだ。 【教職員アンケート⑪】 ・児童が意欲をもって取り組めるよう授業を工夫している。 A: +評価90%以上 B: 80%~ C: 70%~ D: 70%未満	【児童⑩92%】【教職員⑪91%】 ・7月に鉄棒旬間を実施し、全校で鉄棒に取り組む機会を設けた。児童の参加意欲は、学年や学年ごとの促進をねらい、児童一人ひとりの技の向上状況を全校で共有できるように提示した。また、活動のフォローシートを作成し教職員間で共有し、全学級が活動に参加するよう促した。	A	2学期は体育委員会と連携し、本校の体力面での課題達成を目指し、全校児童が主体的に参加できるような体育行事を企画していく。 ・10月の運動会では、スローガンに向かって全校児童が目標を持って取り組めるように、各クラスで自分の目標を具体的に考える場を設定する。
	②(命を守る取り組みの推進) 学校生活において安全対策・安全教育を徹底し、事故のない安全・安心の教育活動を確保する。	保健体育部	【児童アンケート⑪】 ・安全な生活を送るための正しい行動を、自分で考え、できている。 【教職員アンケート⑫】 ・安全な生活の推進を養護教諭や保健委員会等と連携して取り組んでいる。 A: +評価90%以上 B: 80%~ C: 70%~ D: 70%未満	【児童⑪94%】【教職員⑫93%】 6月の熱くなくきた時期から、玄関に毎日の気温、湿度、WBGT値を掲示した。休み時間前に自分で確認することで児童の熱中症に対する意識の向上が見られた。児童の様子を見ながら、避難訓練や不審者対応の訓練も行った。避難訓練は、例年よりも真剣に取り組む様子が見られ、実際に地震が起きたときにも机の下にもぐって避難行動をとることができた。	A	2学期も引き続き暑い日が続くため、熱中症対策を行い、児童が自ら対策をとれるように掲示や放送を行って働きかけ、特に増えやすい運動会時節のけがの予防や冬の感染症予防対策を自分自身で行えるよう、保健委員会と連携して呼び掛けている。
	③(健康教育・生活リズムの確立) 自らの健康や生活に関心をもち、進んでよりよい生活習慣・食育づくりを推進する。また、地域・保護者と連携して、家庭学習や生活のふりかえりシート等、生活リズムの確立に向けて取り組む。	保健体育部	【児童アンケート⑫】 ・家庭学習ががんばり週間カード ・各家庭で決めたメタリールの達成率 A: +評価90%以上 B: 80%~ C: 70%~ D: 70%未満	【家庭学習ががんばり週間カード87.6%】 6月「正しいメディアの使い方の動画を視聴し、全学年80%を達成する率となった。また3年生以上が行った別のアンケートでは「友だちと遊ぶ時間や家族と話す時間をへらして、メディアを使いたい」と答えた児童が11.6%であったことから、児童自身も「メディアを使いたくない」と感じることがあった。	B	2学期には、児童と保護者が非行被害防止講座「メディアコントロール」について話を聞く場を設ける。メディアの正しい使いかたや、友だちや家族とコミュニケーションがとれるような時間の過ごし方について、家庭と連携しながら実践していけるよう働きかける。
5 家庭・地域との連携	①(ふるさと愛の醸成) 様々な体験を通して、能美市や根上の自然や歴史・産業・文化に触れ、ふるさとを愛する心と態度を養う。	教頭	【児童アンケート⑬】 ・地域のことを調べたり学んだりして、能美市や根上のことがわかったり良さを発見したりできた。 【教職員アンケート⑬】 ・学校運営協議会と協力して、地域をいかに授業を行っている。 A: +評価90%以上 B: 80%~ C: 70%~ D: 70%未満	【児童⑬88%】【教職員⑬84.7%】 各学年では町探検や農業体験、福祉学習、遠足等で福岡地区や能美市の地域の学習にふれることができた。地域がわかったり、良さを発見したりした児童も88%と高めた。教職員については、クラブ活動、読み聞かせ、丸いも農業体験、米作り体験等において、地域の「もの、ひと、こと」について、CS委員や地域の方々に協力していただき、学習を進めることができた。	B	・地域の学習は、学年に応じて、様々な分野で取り入れられているが、これらも計画的に活動していくようにする。また、長期的に継続して実施していく活動も多いので、今後も地域の学習や総合的な学習、各教科での活動で、地域の方にゲストティーチャーやサポートとして活躍していただいたり触れあたいしていく。 ・教職員も地域について子どもと共に学ぶ姿勢で、取り組んでいくようにし、感謝の気持ちを表すようにする。
	②(コミュニティスクールの推進) 学校と地域・家庭が協働し、子どもを地域で支え育むため、学校運営協議会を充実させ、「開かれた学校」づくりを進める。	教頭	【保護者アンケート⑭】 ・学校・PTA・地域の活動や行事に参加している。 【学校運営協議会委員の意見】 ・学校と地域が目標を共有して、連携・協働して活動している。 A: +評価90%以上 B: 80%~ C: 70%~ D: 70%未満	【保護者⑭89%】 授業参観や学級懇談会、個人懇談会等も例年通り開催でき保護者の参加率も高くなっている。夏休みのふれあいラジオ体操や町内での企画も行われ、学校・PTA・地域の活動や行事に協力的な保護者の方が多い。 1学期は交通安全教室や家庭科の調理実習、裁縫などで地域の方に授業での支援をしていただいた。児童のために共に活動していただき、また、ほかほかタイムの設置により、児童は地域の方とのコミュニケーションも図ることができた。	B	・学校行事や学習の様子はお便りやホームページ等を利用して、保護者や地域に伝えていく。また、PTA活動についてもさらに活性化するために広報やホームページ等を活用し発信していく。 ・CS委員や地域の方は、学校の教育活動にとても協力的である。地域の方とのつながりを大切にし、学校と地域が協働的に活動できるようなコミュニケーションを図りながら、「福岡っ子」を育てていくよう努める。